# 主体的にとりくみ　仲間とともに学び合う　すえのっ子の育成

―　６年　「意見文『新型コロナウイルスに負けない！～十年後の○○～』を書こう」の実践を通して　―

1　主題設定の理由

2　めざす子ども像

3　研究の仮説と手だて

4　A について

5　単元計画

6　研究の実際と考察

7　研究の成果と課題

第１分科会　日本語教育
Ａ　作文・話しことば

小山　和哉　（豊田・寿恵野小）

## 研　究　の　概　要　報　告

１　今次教研で論じられた主要な課題

本年度、提出されたリポート数は作文（綴り方）の教育１２本、言語の教育１本、音声表現の教育４本であった。

作文の教育では、「どのような題材を取り上げるとよいか」という課題に対して、書くことの主体性をのばしていくためには、まず生徒の興味関心のあるテーマや題材を扱い、それを子どもたちが自分の力ですすめていくことができるような学習過程のしくみや環境整備を行っていく必要があると考えられる。また、「書くことの力を高めるための指導の工夫」という課題に対して、書く力を的確に見取るための評価方法を工夫することが重要で、その上で、児童生徒の書く力に応じた個別最適な学びを考えていく必要があると考えられる。

音声表現の教育では、「音声言語の特徴を生かす指導法と音声表現の評価」という課題に対して、話型を使うことは効果的であるが発達段階に応じて、話型を更新させていく必要があると考えられる。また、タブレットを活用すれば、児童生徒の音声表現を録音することができ、それを教員による評価や自己評価につなげられると考えられる。

全体として、評価に関して明確に方向性を示すような実践はあったもののその数は少なかった。指導と評価の一体を考えると、評価あっての指導であり、しかし評価ありきで考えすぎると子どもの主体性を奪うことにもなりかねないため、そのバランスをとりながらどう指導にあたっていくのかが課題である。

２　県内の自主的研究のとりくみ

作文・言語の実践では、ペアやグループでの推敲活動を通して相互に書く力を高めていくようなものが多く、協働的な学びを実現している。また、文章構成の型や書く力に直轄するヒントなどを教室掲示することで、児童が主体的に書くことができるように支援するとりくみも複数見られた。これらはまさに新学習指導要領の「主体的対話的で深い学び」につながる実践と言える。評価に関しては、評価規準を具体的に設定するために学年や学校全体で協議・決定し、その規準を全校で活用していくという実践もあった。さらに、書くことの基盤でもある語彙について、それを豊かにするために、言葉集めや速音読、名文の暗唱といった活動を書く活動の前に取り入れるといった書くことと言語を組み合わせた実践も見られた。

本年度はタブレット端末の普及により、それを活用した実践が急激に増えた。様々な学習活動においてその活用が見られ、例えば、作文において、推敲の時間や手間を減らすため、タブレットで文書を作成するという実践もあった。確かにタブレット活用のメリットが生かされているといえるが、一方で手書き推敲のよさを失ってしまうのではないかという懸念も考えられる。今後はタブレットなどのＩＣＴ機器の活用を通して知り得た各単元や学習活動との相性を検証するような実践が出てくることに期待したい。　　（砂川　誠司・古安　良啓）

## 報　告　書　の　で　き　る　ま　で

この報告書は、70 次に及ぶ愛教組連合教育課程研究委員会の研究成果をふまえ、単組・県の研究・討議を経て作成したものである。報告書の作成にあたり、ご指導いただいた助言者の先生をはじめ、関係の諸先生方に深く感謝の意を表す次第である。

| | | |
|---|---|---|
| 助　言　者 | 砂川　誠司（愛知教育大学） | 古安　良啓（名古屋・桜山中） |
| 教育課程研究委員 | 澤野　佑輔（名古屋・引山小） | 土松　真紀（名古屋・味鋺小） |
| | 仁科　真由美（尾北・古知野中） | 白岩　和樹（豊川・御津南部小） |
| | 藤井　　桂（岡崎・美合小） | 後藤　佑介（名古屋・大須小） |
| | 蛭川　義之（一宮・大徳小） | |

## １　主題設定の理由

本学級の児童は，自分の考えを積極的に伝えたり，友だちの考えを受容的に聞いたりと，活発に意見交換をすることができる。しかし，文章を書く場面では，自分の考えや思いは「～と思います。」「～でよかったです。」という限られた文末表現だけで書く姿が多く見られる。どんな文章であっても，自分が感じたことを主観的に思い付いたままに書き，読みにくい文章になってしまう。これは，これまで事実を客観的に述べるような文章を書いたり相手に読んでもらったりする機会が少なかったことが原因であると考える。また，自分の考えを伝える時，言葉のみで話しているため，相手に大切な内容が伝わっていない姿も見られた。

そこで，相手を意識して，事実をもとに自分の意見を書く学習として本単元を設定した。本単元では，事実，感想，意見を区別し，資料を使うことで，説得力のある意見文を書く力を高めたいと考える。また，仲間とともに文章全体の構成や展開を吟味し，それに関連する資料を選択して提示する力を身につけることで，より説得力のある意見文が書けるようになると考えている。

## ２　めざす子ども像

（１）書くことを楽しみ，主体的に学習にとりくむことができる子
（２）自分の考えを明確にし，より説得力のある意見文を書くことができる子
（３）仲間や地域の方の意見を聞いて，さらに自分の考えを深めることができる子

## ３　研究の仮説と手だて

（１）仮説１

導入の段階で，相手意識や目的意識を明確にもたせる工夫をすれば，主体的に学習にとりくむことができるだろう。

＜手だて＞

①学習課題を明確にし，子どもたちとともに学習計画を立てることで，主体的に学習にとりくむことができるようにする。
②身近で関心の高い分野から自分たちでテーマを設定させることで，意見文を書く必要性をもたせるようにする。

（２）仮説２

文章を書く場面において，集めた情報を整理する方法を知れば，説得力のある文章を書く力が身に付くだろう。

＜手だて＞

①文末表現や文章構成を提示したりすることで，事実，感想，意見を区別した文章を書けるようにする。
②自分で調べた資料を用いることで，説得力のある意見文を書けるようにする。

（３）仮説３

文章を読み合う場面において，仲間と意見を伝え合ったり，地域の方に意見文を読んでもらったりする場を設定すれば，自分の考えを広げたり，深めたりすることができるだろう。

＜手だて＞

①異なる意見をもったメンバーで構成されるグループで対話を積み重ね，違う見方や考え方があることに気付けるようにする。
②地域の方に意見文を読んでいただき，感想を聞くことで，自分の考えを広げ，深められるようにする。

## ４　Ａについて

漢字を正しく使い,簡単な短い文を書くことはできるが,書くことに対して苦手意識があり,自分の意見を伝える文章を書くことができない。本実践を通して,意見文の書き方を学んだり,文章構成シートや意見文を読み合う活動で友だちから称賛を受けたりすることで，書くことに対して自信をもち，自分の考えや思いを広げたり深めたりできるようになってほしい。

## 5　単元計画（全１５時間）

**一次**

「新型コロナウイルスに負けない！十年後の○○」の学習の見通しを立てよう

○新型コロナウイルスの世界的流行によって世の中で変化したことを考える。絵本作家・五味太郎さんのインタビュー記事「コロナ前は安定してた？」を読み，全てが以前の生活に戻ってもよいか考え，十年後の未来を想像する。①

☆学習課題

「地域の方に説得力のある意見文を書いて，感想を交流しよう」を設定する。

○学習計画を立てる。

○自分が意見文として書きたいテーマを考え，自分の考えを整理する。説得力のある意見文にするために必要なことや読んでほしい相手を考える。②

世界や日本は今，どうなっているのかな

**二次**

自分のテーマについて，世界や日本の現状を知ろう

○教科書の本文から意見文の書き方を学ぶ。③

○キーワードの選び方を工夫しながら，自分の知りたいことについてインターネットを使って調べ，情報を収集・整理する。④⑤

○自分の考えや意見の根拠となる情報や資料を選ぶ。⑥

資料を使って，説得力のある意見文を書きたいな

文章の構成を考え，説得力のある意見文を書こう

○序論・本論・結論に気を付けながら構成メモを書く。⑦

○構成メモをもとに，文章構成シートを書く。⑧

○世界や日本の現状を示す資料が適切であるか，友だちと話し合いながら考え，文章構成シートを見直す。⑨

○友だちと話し合いながら自分の意見とは違う見方・考え方に関心を寄せ，文章構成シートを見直す。⑩

○グループで話し合ったことをもとに，より説得力のある意見文を書く。⑪

○自分たちで考えた意見文の要素をもとに，自分の意見文をチェックしたり，友だちからアドバイスをもらったりして推敲する。⑫

自分の意見文を，たくさんの人に読んでもらいたいな

**三次**

意見文を交流させたり，読んでもらいたい相手に発信したりしよう

○友だちと意見文を読み合い，感想を伝え合う。⑬

○自分が読んでもらいたい相手（地域の方）から感想を聞く。⑭

○単元の振り返りをする。⑮

自分が書いたもので人が納得してくれることが嬉しいな

**帯学習**

仮説２，手だて①
文末表現の提示
事実，感想，意見を区別した文章を書けるように，話型を提示する。

仮説１，手だて①
学習課題・学習計画の掲示
相手意識，目的意識をもたせるために，学習課題を立て，それを達成するために見通しをもった学習計画にそって学習をすすめる。

仮説１，手だて②
身近なテーマ設定
子どもが主体的に文章を書けるように，自分の関心のあるテーマを選ばせる。

仮説２，手だて②
自分で調べた資料の活用
説得力のある意見文を書けるように，タブレット端末で探した資料を用いる。

仮説２，手だて①
文章構成の提示
事実，感想，意見を区別した文章を書けるように，文章構成を提示する。

仮説３，手だて①
グループ対話
違う見方や考え方に気付けるように，グループで，それぞれの意見文について話し合う。

仮説３，手だて②
地域の方との交流
自分の考えを広げ・深められるように，地域の方に意見文を読んでいただき，感想を聞く。

帯学習（仮説２，手だて①の具体的な内容）

○「新聞記事を読んで考えよう」新聞記事を読み，それに対する自分の意見を文章で書く。

## ６　研究の実際と考察

### ６－１　主体的に学習にとりくむために

**（１）学習課題を明確にし，学習計画を立てる（仮説１，手だて①）**

本単元に至るまでに国語科の授業では，感染予防のためのポスターを製作して地域の公共施設や店舗に掲示したり，豊田市郷土資料館の企画にインターネットを使って投稿したりと，書いたものを学校外へ発信する機会を多く設けた。発信したものに対する地域の方々からの返信を紹介したことで,「自分が書いたものが他の人に認められた」という充実感をもたせることができた。これらの経験から，自分の考えを発信することへの意欲が高まっていた。その意欲をいかし，本単元では「地域の方に説得力のある意見文を書いて，感想を交流しよう」という学習課題を設定した。「学習課題を達成するまでに何をすればよいか」と問いかけると,「構成メモをつくる」「推敲する」といった活動があがった。これらを整理して学習計画を立て，教室に掲示し，常に確認できるようにした（資料１）。授業の終わりに「次は何をする？」と問いかけられた A はすぐに掲示を眺め，次の学習を確認していた。子どもたちと学習計画を立て，それを掲示したことで，見通しをもってとりくむことができた。

また，読んでもらう人を地域の人とすることで相手意識をもたせた。その相手に自分の意見を分かってもらうために「説得力のある意見文を書く」という目的意識を明確にもたせた。授業の始めには必ずこの目的を確認し，意識付けを行った。A の毎時間の振り返りには,「説得力のある意見文を書けるように」「写真より表の方が説得力のある意見文が書ける」といった記述が見られることから，常に目的意識をもって学習をすすめることができたと考える（資料２）。

資料１　学習計画表

新型コロナウイルスに負けない！　～十年後の○○～

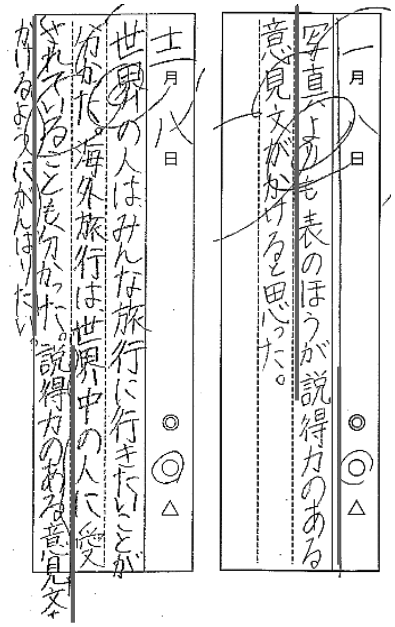
学習計画表　年　組

めあて　学習計画を立てよう。

学習課題　地域の方に説得力のある意見文を書いて、感想を交流しよう。

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 〈一次〉 | | 〈二次〉 | | | | | | | | 〈三次〉 | |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| | 学習計画を立てる。① | テーマと読んでほしい相手を考える。① | 意見文の書き方を学ぶ。① | 知りたいことを調べる。② | 意見の根拠となる資料を選ぶ。① | 構成メモを書く。① | 文章構成シートを書く。① | 文章構成シートを見直す。② | 意見文を書く。① | みんなで読み合って、推こうする。① | 友達と感想を伝え合う。① | 地域の方に読んでもらい、感想を聞く。① | 単元の振り返りをする。① |
| | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / |
| | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / | / |

資料２　A の振り返り




**（２）身近で関心の高い分野から自分たちでテーマを設定する（仮説１，手だて②）**

子どもたちの書くことへの意欲を高めるために,「新型コロナウイルスに負けない！～十年後の○○～」と題し，学校や習い事といった身近なものの未来や，将来の夢に関わるものの未来など，関心の高い分野から意見文のテーマを自由に設定させた。現在，子どもたちにとって「新型コロナウイルス」は最も身近で関心の高い話題であると考える。また，収束しているであろう未来を想像することで，楽しく，希望をもって学習に向かえると考える。単元の導入では，絵本作家のインタビュー記事を読んで，これまでの生活を振り返り，十年後の未来に残したいもの，いらないものを整理した。A は始め,「十年後も旅行が必要だ」と「十年後に追試はいらない」という二つの意見で迷っていたが,「コロナの自粛生活を経験したからこそ書けるテーマはどっちかな」という教員からの問いかけを受け,「十年後も旅行が必要だ」というテーマで意見文を書いていくことを決めた。

## ６－２　より説得力のある意見文を書くために

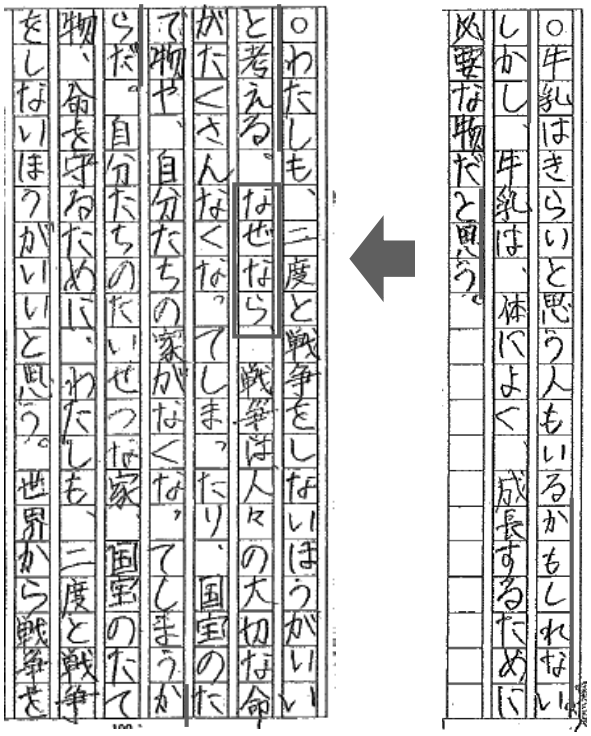
### （１）話型や文章構成を提示する（仮説２，手だて①）

説得力のある意見文を書けるようにするために，教科書「世界に関心を寄せて意見文を書こう」の本文から文章の構成や文末表現，資料を用いることなど，意見文の書き方を学んだ。大切なポイントを「文章構成」「双括型」「適切な資料」「文末表現」「ちがう見方・考え方」の５つに分けてまとめ，掲示した。

朝の帯学習は，新聞記事を読み，それに対する自分の意見を百字程度で書く活動である。子どもたちにとって身近な話題を選定することで，意見をもちやすくなり，書くことが苦手な子どもでも楽しんで活動することができた。また，「～と考える」「なぜなら～だからだ」というような意見やその理由を書く時に用いる文末表現を提示し，使ってみるよう促した。A は，始めのうちの牛乳についての新聞記事を読んだ時には「～かもしれない。しかし，～と思う」というような，控えめな表現を使って書いていた（資料３）。しかし，トレーニングを重ね，戦争についての新聞記事を読んだ時には，「～と考える」という自分の考えを明確にする表現を自然に使えるようになった。それに加え，意見の後には根拠となる具体的な例をあげ，説得力をもたせる文章を書くことができるようになってきている。意見の書き方を身に付けたと同時に，自分の意見に自信をもつことができるようになってきたことがうかがえる。

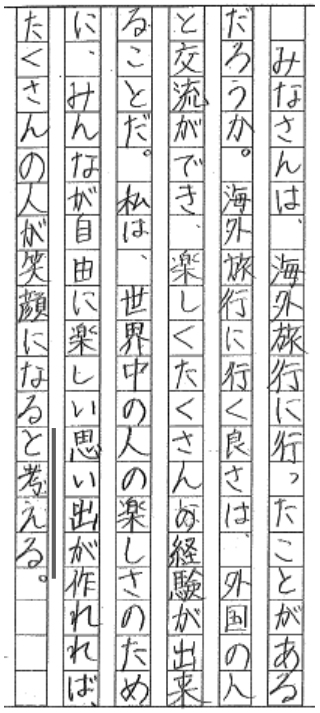
A はこの帯学習で学んだことを生かし，単元の終末で完成させた意見文では，序論で問いかけの文末表現「～だろうか。」を使ったり，「～と考える。」という表現を使ったりして，自分の意見を明確に書くことができた（資料４）。

資料３　新聞記事を読んで考えよう


○牛乳はきらいと思う人もいるかもしれない。しかし、牛乳は、体によく、成長するために必要な物だと思う。

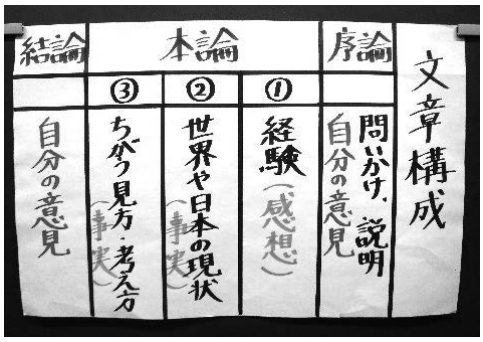
○わたしも、二度と戦争をしないほうがいいと考える。なぜなら、戦争は人々の大切な命がたくさんなくなってしまったり、国宝のたて物や、自分たちの家がなくなってしまうからだ。自分たちのたいせつな家、国宝のたて物、命を守るために、わたしも、二度と戦争をしないほうがいいと思う。世界から戦争を

資料４　A の意見文（序論）

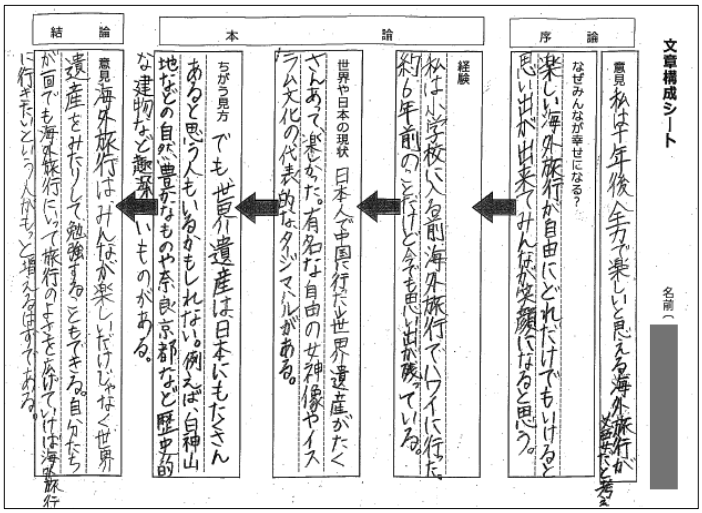

みなさんは、海外旅行に行ったことがあるだろうか。海外旅行に行く良さは、外国の人と交流ができ、楽しくたくさんの経験が出来ることだ。私は、世界中の人の楽しさのために、みんなが自由に楽しい思い出が作れれば、たくさんの人が笑顔になると考える。

また，事実，感想，意見を区別した文章を書けるようにするためには，文章のどこに何を書くかを明確にしておくことが大切であると考え，文章構成を教室に掲示した（資料５）。これをもとにして，子どもたちは意見文の文章構成シートを作成した。A も，提示された文章構成を参考にし，相手に伝えたいことを整理して書くことができた（資料６）。文章の書き出しと終わりに意見を述べる，双括型を意識して書いている。また，このシートを使って書いた意見文では，序論と結論に自分の意見，本論①の「経験」では経験をもとにした感想，本論②の「世界や日本の現状」と本論③の「ちがう見方・考え方」では事実というように，それぞれを区別して文章を書くことができた。

資料５　文章構成の教室掲示




資料６　Ａの文章構成シート




**（２）自分で調べた資料を活用する（仮説２，手だて②）**

自分の考えを相手に分かりやすく伝えるための助けとなる資料を探すために，タブレット端末を活用した。Ａは本論②の「世界や日本の現状」で述べている世界遺産について，複数の資料の中から，世界遺産の多い国をまとめた表（資料７），日本の寺の写真，アメリカの自由の女神の写真の計３つを選んだ。表の中の数値に目を付け，「資料１で見ると，インド，アメリカ合衆国，ほかにも日本を上回っている国が多い」と，海外の国の世界遺産の数の多さについて事実を述べた。自分の意見を伝えるために，適切な資料を活用したことで，意見文により説得力をもたせることができた。

資料７　Ａが選んだ資料

資料１ 世界遺産の多い国

| 順位 | 国名 | 世界遺産の登録件数 |
|---|---|---|
| 1 | イタリア，中華人民共和国（中国） | 55 |
| 3 | スペイン | 48 |
| 4 | ドイツ | 46 |
| 5 | フランス | 45 |
| 6 | インド | 38 |
| 7 | メキシコ | 35 |
| 8 | 英国 | 32 |
| 9 | ロシア | 29 |
| 10 | アメリカ合衆国（米国），イラン | 24 |
| 12 | 日本 | 23 |

（キッズ外務省より）

資料出典：「世界遺産の多い国」（外務省）
（http://www/mofa.go.jp/mofaj/kids/ranking/isan.html）
（2020 年１月１９日に利用）

## ６－３　さらに自分の考えを広げたり深めたりするために

**（１）グループでそれぞれの意見文について話し合う（仮説３，手だて①）**

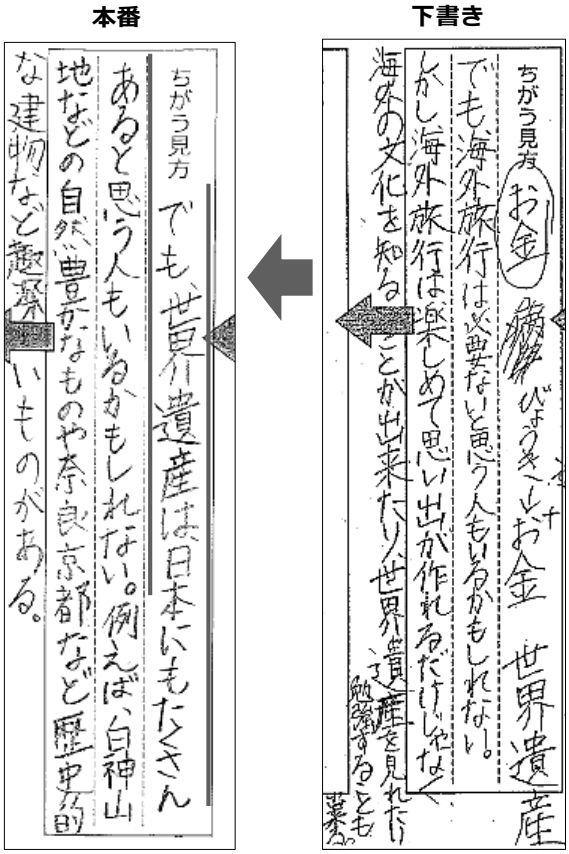
ただ自分の意見を述べるだけでなく，そのテーマについて他にも多くの違う見方や考え方があることに気付き，多面的に考えながら意見文を書けるようにするために，グループで話し合う場を設定した。タブレット端末で互いの文章構成シートを見合い，同じグループの子の意見に対して「でも」を使って，多くの違う見方・考え方を出し合った。Ａは「十年後も海外旅行は必要だ」という意見を伝えるために，海外旅行に行った自分の経験や「海外旅行に行きたい」と思っている人の多さ，海外旅行の魅力を文章構成シートに書いていた。それを読んだ他の児童が「世界遺産は日本にもあるよ」と発言した。これを聞いたＡはうなずきながらプリントに書いた。この様子からＡは，違う見方や考え方に触れ，新しい事実に気付いたことがわかる（資料８）。Ａはこの意見に着目し，文章構成シートの本番では，「でも，世界遺産は日本にもたくさんあると思う人もいるかもしれない。」と書き換えている（資料９）。また，本時の振り返りには，「Ｄさんの日本の世界遺産もあるという意見は，私にはなかったので，話し合ってよかったと思った。」と記述している。違う考え方に気付いたことから，具体的に日本の世界遺産のよさを意見文に取り入れることができ

資料８　１０／１５時の授業記録

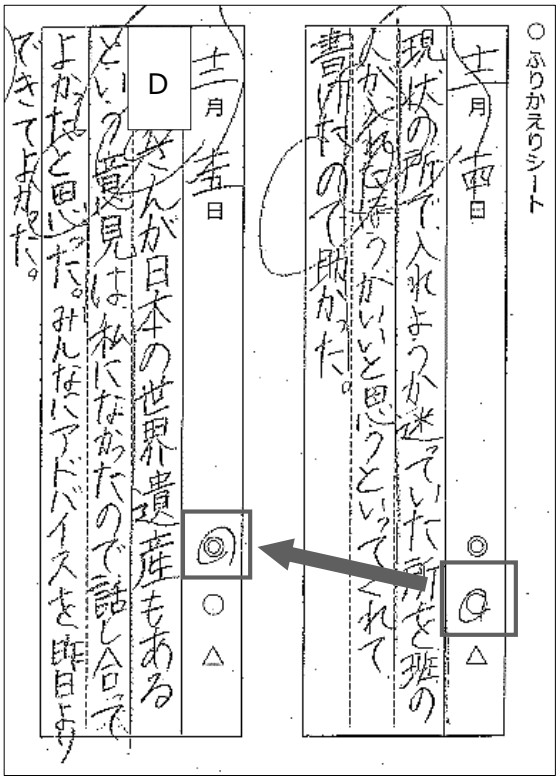
Ｂ　：旅行は費用がかかる。お金がない人は行きづらいと思います。
Ａ　：たしかにお金はかかる。
Ｃ　：賛成。
Ｄ　：世界遺産は日本にもあるよ。
Ａ　：あー。
（うなずきながら「世界遺産は日本にもある」とプリントに書く）
Ｄ　：日本の世界遺産もいいところあるんじゃない？
Ｂ　：奈良とか京都って世界遺産がいっぱいあったよね。
Ａ　：たしかに。二条城も世界遺産か。
Ｄ　：日本は自然も多いよね。
Ｃ　：白神山地とか聞いたことある！
Ａ　：そこも世界遺産？

た。さらに，意見文を書くことへの自信の度合いは，前時までは「○」であったが，本時を終え，「◎」に変わっていた（資料１０）。グループで話し合う場を設定したことで，資料８のように，「たしかに。二条城も世界遺産か。」「そこも世界遺産？」とＡが反応していることから，友だちの違う見方・考え方に気付くことができたとわかる。

資料９　Ａの文章構成シートの変容




資料１０　Ａ振り返り




**（２）自分の考えを広げ，深める（仮説３，手だて②）**

自分の考えをさらに広げたり深めたりすることができるように，完成した意見文を地域の方に届け，感想や意見を書いていただいた。単元の一次で考えた「読んでもらいたい相手」をふまえ，Ａは修学旅行でお世話になった旅行会社の担当者さんに依頼し，意見文を読んだ感想を書いていただいた（資料１１）。専門的な知識をもつ，その道のプロからの返信はどれも説得力があり，感想を読み上げると，子どもたちは興味深そうに聞き入っていた。Ａは，単元の終末に書いた学習の振り返りで，「生活習慣や文化のちがいが大きく，視野を広げることができると，初めて知りました。」と記述していることから，海外旅行についての考えを広げられたことが確認できた。また，「書くおもしろさや人の意見文を読む楽しさを知ることができてよかったです。」という記述からは，書くことに対する苦手意識が緩和されたことがうかがえる（資料１２）。この気持ちになったのは，自分の意見文が相手に十分伝わったと感じられたからだと考える。

資料１１　旅行会社の担当者さんからの感

> イタリア，中国のように世界遺産の数が多い国は歴史が長く，日本と違った形の城やお寺もあります。アメリカに関しては，歴史よりも壮大なスケールのもの，特に自然が多いので注目するとよいです。海外旅行の魅力は，世界遺産以外にも，生活習慣や文化の違いを大きく感じることができ，自分自身の視野も広げることができることだと思います。各国がコロナ対策をしっかりして，十年後には元に近い形で旅行できるとよいですね。

また，地域の方々の感想や意見の中には，「その通りだと思います。」「マスクは君の言う通り非常に重要なアイテムです。」など，肯定的な言葉を書いてくださる方が多く，それを聞いた子どもたちは「自分が書いた意見文を読んで納得してくれた」という充実感を味わうことができた。

資料１２　Ａの単元の振り返り

意見文を書いたり、旅行会社の方からの感想を聞いたりして、海外旅行のことをさらにくわしく知ることができました。特に、生活習慣や文化のちがいが大きく、視野を広げることができると、初めて知りました。また海外旅行に行けるようになったら、いろいろな国に行ってみたいです。文章を書くのは苦手だけど、少し文章を書くおもしろさや人の意見文を読む楽しさを知ることができてよかったです。

## ７　研究の成果と課題

### （１）研究の成果

本単元では，「新型コロナウイルス」という大きなテーマをもとに，それぞれが関心の高い分野について自分たちで意見文のテーマを設定した。これにより，子どもたちの学習意欲が高まり，書くことに対する苦手意識が強い児童でも，単元を通して楽しみながら学習をすすめることができた。また，「地域の方に説得力のある意見文を書いて，感想を交流しよう」という学習課題を明確に設定し，子どもたちと一緒に学習計画を立てたことで，相手意識や目的意識をもち，主体的に学習にとりくむことができた。

説得力のある意見文を書くことができるように，大切な５つのポイントの掲示を行った。帯学習でのトレーニングを継続的に行ったことで，Ａ も序論の問いでは，「～だろうか」と使うことができた。意見文を書く時には，学習した文末表現を使うとよいことが理解できた。また，文章構成を提示し，どの段落に何を書くかが明確であったことで，事実，感想，意見を区別した文章を書くことができた。そして，数を根拠にあげられる表を取り入れたことで，より説得力のある意見文を書くことができた。このことから，大切な５つのポイントの掲示は，文章を書く力を身につけるのに有効であったと言える。

グループで話し合い，文章構成シートを見直す場では，異なる意見をもったグループのメンバーと話し合った。それにより，違う見方や考え方に気付くことができた。また，完成した意見文を地域の方に読んでいただき感想を聞く場を設定し，自分が書いた意見文に対する専門家の感想を聞くことで，テーマについての考えを広げられた。これにより，説得力のある意見文を書く力を高められたと考える。

### （２）今後の課題

本単元では，事実，感想，意見を区別して文章を書けるように力を入れて指導してきたが，文章全体を通して書く内容につながりをもたせることができなかった。段落どうしのつながりを意識させ，一貫性のある文章を書けるよう心掛ける必要があると感じた。また，違う意見に対する反論を書く部分で，根拠を明確にして表現できれば，より説得力のある意見文になっただろう。書きたいことが序論から結論までつながるように，文章全体の構成や内容をよく考えて書く力を高めていきたい。